

効率よく、効果的に 質の高い英語力を身につける

～英語の何を身につければいいのか～

現地で仕事力が
英語力に比例して
しまうという辛い
現実

「K／Hシステム英
語学習法」は、1990
年代の前半にワシント
ンD.C.で駐在員の
方々に同時通訳者の英
語の勉強方法を紹介し

たのが始まりでした。
日本で英語を勉強して
きたのに、アメリカで
は聞き取れない、話せ
ない、それゆえに、仕事
で結果を出せない、対
等に扱われないという
悔しさを多くの駐在員
の皆さんが感じている
時代でした。日本では
優秀なビジネスパーソン

ンだったはずなのに、
アメリカに來たら結果
が出せない、認めても
らえない。その原因は
英語が十分でないこと
にあることには気づい
ていても、問題は、ど
うやったら英語が上手
になるのか、その方法
がわからなかったのだ
です。当時、私たちの紹
介した方法に大いに感
激して、評価してくれ
た駐在員の方々から、「他
にも困っている駐在員
がいるはずだからもっ
と広げてみればいい。
ただし、忙しいビジネ
スパーソンが勉強する
のだから、体系的で納
得できる学習の仕組み
にした方がいい」との
アドバイスを受けて、
日々改善しながら、デ
トロイト、コロンバス、
ニューヨークなどでプ
ログラムを提供しはじ
めました。それから、も
う25年以上が経ちます。
プログラムに参加して
くださった方々も、日
米両国で2万人にはな
るでしょう。今でも、付
け焼刃でない、本当に
レベルの高い英語力を
身につけていくための
必要要素、落とし穴、
学習ステップ、訓練方
法を洗い出し、どうす
れば、効率よく、効果
的に、質の高い英語力
が身につけられるのか
を常に模索しつづけて
います。大きな成果も
上げていいるのは事実で
すが、今よりもさらに
効果の上がる英語学習
システムを作り続ける

英語力の上に載る コミュニケーション力

ただ、英語力を磨く
のも、つまるところ、そ
の目的はコミュニケーション
です。それを考
えたとき、英語力その
ものに加え、コミュニ
ケーションのルールや
コツといった面での知
識と能力にも、最低限
身につけておくべき不
可欠なものがあること
も痛感してきました。
そのきっかけは、ケン
タッキーにある大手の
自動車会社の工場での
企業研修が始まり、企
業研修と公開講座とい
う二本柱で英語研修プ
ログラムを提供しはじ
めた1996年ごろの
ことでした。人事担当
の方から「英語は上手
なのにアメリカ人とう
まくゆかない駐在員も
いるんだよね」という
相談を受けました。「英
語が上手なのになぜ、」
と思い、日本人駐在員
や駐在員と働くアメリ
カ人に何十人となくイ
ンタビューして調べて
みました。その結果分
かったことは、日本で
学んだ語彙や表現で直
訳的な英文を作ると、「
キツイ」、「失礼」、「
手を非難している」、「
個人攻撃」といった響
きになってしまうこと
がよくあるということ

でした。また、「話の組
み立て方」も注意しな
いと、相手に「分から
ない」、「誤解される」、「
ヤル気を削ぐ」言い
方になってしまうこと
が分かりました。アメ
リカ人の優秀なマネー
ジャーはどんな言い方、
話し方をしているのか
を調べた結果、日本人
駐在員とは全く違う言
い方で伝えていること
が分かり、唖然としま
した。なぜ、アメリカ人
はそのような言い方を
好むのかを突き詰める
過程で、その根底には
アメリカ人のもつ価値
観があることも分かり
ました。言い換えれば、
信頼と尊敬を得ながら
成果を出せるコミュニ
ケーション力に必要な
英語圏の価値観を洗い
出さないと、いい研修
は作れないことを痛感
しました。同時に、これ
は、日本と北米の文化、
さらには西洋文化の深
い理解まで続く大鉾脈
かもしれないと思い、
知的に興奮したのを覚
えています。

日米両方でプログ ラムを提供

この分野ならば一生
をかけて追及する価値
のある仕事になるだろ
うと思って、2001
年に日本でもK／H
コミュニケーションズ
という会社を作りま
した。「日本語文化で
育った社会人が、外国

人相手のリアルなビジ
ネスの現場において真
の意味で通用するため
には、『英語力』と『仕
事コミュニケーション
力』の二つを同時に養
成しなければならぬ」
という信念のもとに、
働く方々の声、現場の
課題、現場のニーズな
ど、何よりも、現場、か
らの声を糧に考え、ま
た、優れたリーダーと
して国際的なビジネス
やコミュニケーション
の現場で活躍している
方々の例から学び、直
接インプットもいただ
きながら、企業研修プ
ログラムを本格的に始
めました。現在は、ア
メリカの事業はLexis
Communications、日本
の事業はK／Hコミュニ
ケーションズが担当
しています。クライア
ントは10数社程度です
がアメリカでは大手の
自動車メーカーとサブ
ライヤーさん、それに
加えて、日本では大手
の医薬品、生保、硝子、
日用品関連の企業から
監査法人、労働組合か
ら政府まで幅広く研修
を提供しています。

K／Hシステム 英語・コミュニケー ションプログラム

英語力とコミュニ
ケーション力強化の二
本柱ですが、ここでは、
英語力研修の一部を紹
介します。
「英語学習をする時

に、『何を身につけよう
としているのか』がよ
く判らないまま学習し
ていませんか？、これ
をよく受講者の皆さん
に問いかけます。たし
かに、がむしゃらに英
語を聞きまくれば、そ
れなりの効果があるの
ですが、効率も悪く、
多くの方々はそれでも
続けるほどの時間も根
性もなく、やがて挫
折してしまいます。で
は、どうすればいいの
でしょうか？まずは次
の2つを確認してみ
てください。「英語の何
を身につければいいの
か(What)が具体的に分
かっていますか？、次
に、『それを身につける
方法(How)が分かりま
すか？』この2つの点
は当たり前のようで分
かっていないことが多
いようです。ここでは、
「何を身につければいい
のか」を中心に具体的
に説明してみましょ
う。ここに一つの英文
があります。I need
the data from you on
Tuesday in order to
include it in our report.
この聞き取り練習
をクラスでやってみる
と面白いことが分か
ります。

英語の強弱のリズ ム感を体得してい ますか

一つ一つの音節を同じ
強さで発音していませ
んか？

まずは、音が完全
に取れないことです。
“fo”や“g”や“in our”
などは特に難しいよう
です。音が取れないと、
当然のこととはいえ、
意味も適当になってし
まいますから、まずは
個々の単語が聞き取れ
るようになることは必
須であることは一目瞭
然ですね。具体的に、日
本語で育った私たち
にとって何が難しいか
とて、何が難しいか
といえば、英語の強弱
のリズムなのです。こ
れが日本語との大きな
違いです。日本語的に、
すべての音節を強く、高
低の抑揚で英語を話
してしまっていて、聞き
取りでもその感覚のま
まで英語を聞き取るう
としてしまうのです。
そうすると、強弱のス
トレス発音である英語
の「弱い部分」が聞き
取れなくなります。さ
らには、弱いところは
力が抜けてリエゾンし
て音がつながって発音
されるために、思っ
てる単語の音とまったく
別の音に聞こえるとい
う二重苦があります。
よって、まずは、日本
語的な高低の抑揚を脱
して、強弱のリズムを徹
底的に身につけること
が必須なんです。こ
れが身につけねばなら
ない英語の音の特徴で
す。身につける方法と
してシャドーイングと
いう方法がありますが、
最近ではだれでも知っ
ているので、ここでは割
愛します。

音がつかめても、
意味が分かっている
ことにはならない

では、聞き取りで音
が全部とれて、単語が
分かったとしても、そ
れで英語が聞き取れた
と言えるのでしょうか？
答えは否です。多
くの学習者は、すべて
聞き取れた気はするの
に、聞いた傍から頭か
ら抜けて、忘れていっ
てしまうという現象に
悩みます。なぜでしょ
う？多くの場合、3つ
の原因があります。
「英語を英語で理解す
る」という意味を誤解
していませんか――英
語の音だけが頭に残っ
ていませんか？

まず一つ目は、I need
the data from you on
Tuesday in order to
include it in our report.
を聞き取るつづける、
「I need... なんだった
けなく、Tuesday, えっ
とreportがあつたな、
ああ、忘れてしまった」
という反応です。実は、
意味を忘れてしまった
というよりも、はじめ
から意味として理解し
ていなかったんですね。
これは、「英語を英語で
理解しようというクセ」
が悪習になっている場
合に起こります。「英語
を英語で理解する」と
いう本当の意味は、「英
語を意味やイメージで

理解する」ことなので、単に聞こえた英語をそのまま英語で頭に残しても意味になりません。そのための対策としては、英語を聞く時には、「意味にする、イメージにする、または自分の理解に落とし込む」とするクセをつけることです。それでも意味に落とし込めない単語や表現は、最終的には辞書などを調べて基本的な意味を確認して、自分がかつともピンとくる日本語やイメージと結びつけて覚えておくしかないでしょう。たとえば、文頭に「I need to...」と来て文が長くなったとしても、関西人なら「せなあかん」とイメージ的に腹に落ちる理解をする癖をつけることで、最後まで忘れにくいような聞き取り方ができるように前もって工夫しておくということです。日本語をとっかかりに、ここまで腹落ちする理解で癖付けすれば、言葉など意識しない「英語→意味」まで、もうほんの一步で行ける近道の道をつけたことになります。という中で、英語を意味として理解する、イメージ化するクセをつけること、これが英語を英語で理解しようとするこの本意です。

頭に残りますか
文の終わりの単語だけが頭に残ってない？
2つ目は、聞き取れたと思ったが、実は文末しか覚えていないという現象です。「I need the data from you on Tuesday in order to include it in our report」と聞いても、大げさに言えば、「レポートがどうしたって」とreportしか頭に残らない聞き方になります。これは、日本語的な構文の特徴である「詳細の説明から始まって、最後に重要なポイントを言うて終わる」感覚で、英語を聞いてしまっているからだと思います。英語の構文の特徴である「最初に結論的なメッセージを含む」「主語＋述語動詞＋目的語」が来て、その後補足的な情報が「前置詞＋名詞」「接続詞＋節」「関係詞」などの形で足されてくる」という流れを身につける必要があります。たとえば、上記の英文であれば、「I need the data が結論として重要ですから、まずは、「データが欲しいんだ」という結論部分を頭に残すことが大切だということですね。そうすれば、それに付随する補足情報は思い出せる確率は高いはず。」「誰が必要？」、「いつ必要？」、「何のために必要？」

自問自答してゆけば案外と思いだせるんですね。それなので、英文を聞き取る練習では、まずは全部を聞き取ろうとせずに、文頭の結論と思われる部分だけ聞き取る練習をして、結論を頭に残せるようにします。その聞き取りの型がきたら、次に、補足的な情報を「いつ？」「だれと？」「どこで？」「なんのために？」など自分なりに突っ込みを入れて聞く、そして思い出そうとする練習をするといでしょう。

構文を追いつながら聞くクセがついていきますか
知っている単語だけで推測聞きしていない？
3つ目は、前の2つの課題ができた後の課題になると思います。英語の構文を追わずに、イメージだけで聞いていると、自分の知っていることから推測する聞き方になってしまします。当てることもありますが、思っている以上に外れていることが多いんです(クラスでのテストなどで実証済み)。短い文はこれでも当たるのですが、長い構文になれば、きちんと聞く必要があります。たとえば、「Let's review the process we used in the this project so that we can handle a similar project in a way that would be even better next time. 反省会で使われる普通の英文なのですが、句と節が少々複雑に絡み合っていますね。これは、構文をしっかり追うクセをつけないとまず聞き取れません。この力をつけるには、一度、紙の上でしっかりと構文を分析した後で、分析した構造を意識しながら読む、聞く、を繰り返すことで、構文を追うクセをつくります。



similar project in a way that would be even better next time. 反省会で使われる普通の英文なのですが、句と節が少々複雑に絡み合っていますね。これは、構文をしっかり追うクセをつけないとまず聞き取れません。この力をつけるには、一度、紙の上でしっかりと構文を分析した後で、分析した構造を意識しながら読む、聞く、を繰り返すことで、構文を追うクセをつくります。

以上が「何を身につけるか(WHAT)」の簡単な説明でした。1. 音とリズムは「強弱の特徴」を身に付ける、2. 意味は「イメージ」に落とし込むクセ、「トピック」に来る結論を

グローバル人材養成研修のノウハウを集約した 実践型セミナー

3日間集中 K/H システム 英語・コミュニケーション公開講座

北米ビジネス文化の中で経営・管理する駐在員に必須の能力を磨く英語研修

2020年春季スケジュール

デトロイト	3月21日(土)～23日(月)	■ 基本学習法コース 8:45AM～12:15PM ■ アウトプットコース 1:45PM～ 5:15PM	Courtyard Detroit Novi 42700 W 11 Mile Road, Novi, MI 48375 Tel: (248) 380-1234
-------	-----------------	---	---

■ 基本学習法コース [リスニング力強化]

対象	コース内容
【目安】TOEIC 600点～900点 ■ 今までの英語の勉強方法で壁にぶつかっている方 ■ 社内会議やプレゼンテーションで聞き取りに不安を感じている方 ■ どこか「推測に頼った」聞き取りに後ろめたさを感じ始めている方	付け焼刃でなく、実戦の場で 本格的なコミュニケーションができる英語力の習得 を目指します。 推測に頼ったサバイバル英語から脱却し、瞬時に、文頭から正確に聞き取って、話すコツと、そうした英語力の作り込み方を学習します。実戦のスピードで、かつ正確に意味が取れる力を体系的に身につける学習法を、ワークショップ形式で実践練習をしながら学びます。 「音の力」「意味をとる力」「構文力」のポイントをそれぞれ、分り易く実践的に学び、「何となく分かる」レベルから本当に正確に「英語を英語で理解する」感覚に近づける体系的な訓練方法を体験します。音の掴み方、構文の追い方、英語を意味にするクセづけ、シャドーイング等の実践練習を通じて、確実に効果を実感できるコースです。

■ アウトプット・コース [コミュニケーション力強化]

対象	コース内容
【目安】TOEIC 600点～900点 ■ ビジネスで米人と一緒に仕事をし、リーダーシップを発揮していかなければならない駐在員やマネジャーの方 ■ 伝えたいことが上手く伝わらなかったり、誤解が生じることが多いと感じる方 ■ 米人の予期せぬ反応に戸惑うことがよくある方	意図を誤解されない「ビジネスとして適切な言葉づかい」と、ネイティブが納得しやすい「ロジカルな話の組み立て」が分かり、誤解や衝突が減ります。 1) 英語文化に即した「ロジック(話の組み立て)」 英語のロジックパターン、それらのパターンにそった明晰なスピーキングの実践的練習により、英語の自然な発想を身につけ、意思がより明確に伝わる話し方を身につけます。 2) 社会人の英語（英語の配慮表現） 日本的な発想からくる誤ったトーンの実例を示しながら、適切な話し方の視点や具体的表現をダイアログ例なども使って学びます。英語圏の価値観やビジネス文化に根ざした「礼を失しない表現」、「相手を動かすことのできる話し方」を具体的、体系的に学びます。

▶ 詳しい情報・申込: <http://www.kh-system.com>
▶ お問い合わせ: uscourse@kh-system.com ☎ Lexis Communications 橋本 (703)803-6618